



## 国際交流活動2022年

(国際展開担当理事) 藤山 和仁

去る2022年10月17日(月)~20日(木)に開催された、創立100周年記念第74回日本生物工学会大会、および翌日のサテライトシンポジウム「Joint SBJ Meeting with Indonesia, Philippines, and Thailand」の国際交流関連行事を中心に今年度の国際交流活動について報告する。

■**生物学アジア若手賞** 本年度は第19回目となり、韓国のJonghoon Choi博士(Chung-Ang University)に授与された。受賞対象となった研究題目は、「Nanoscale liposomes encapsulating oxygen saturated buffers for the reverse of hypoxia and drug delivery」で、受賞講演は大会3日目の午後に行われた。Choi博士はソウル大学校(韓国)で学士、メリーランド大(アメリカ)で博士号を取得した。産総研で客員研究員、MITやKISTを経て、漢陽大学校の助手に、中央大学の准教授に昇進し、2020年よりNanomedicine Corpを立ち上げた。ナノ医療、医用生体工学、バイオセンサーなどの研究に従事している。研究業績として、原著論文113報をNature Nanotechnologyなどに報告している(2021年にJBB誌に2報)。本会会員との共著もあり同氏の今後の研究における益々のご発展と当学会との連携を期待したい。

■**生物学アジア若手研究奨励賞(DaSilva Award)** 第11回目の本年度は中国のYu Wang博士(Tianjin Institute of Industrial Biotechnology, Chinese Academy of Sciences)に授与された。受賞対象となった研究題目は、「Development of genome engineering technologies for *de novo* design and construction of microbial cell factories」で、受賞講演は大会3日目の午後に行われた。Wang博士は、中国山東大で学士・修士を修め、博上海交通大学で博士号を取得後、中国Chinese Academy of Sciencesで准教授を務めている。合成生物学などを用いて目的物質を生産する微生物開発を行う代謝工学を研究している。同氏の今後の研究における益々のご発展とJBB誌への貢献を期待したい。

■**Korean Society for Biotechnology and Bioengineering (KSBB) と Biotechnology and Biochemical Engineering Society of Taiwan (BEST) との人的交流** 2022年4月13日(水)~15日(金)に開催されたKSBB春季大会に、青柳秀紀副会長と昨年度の学会賞受賞者である諸星知広先生(斎藤賞・宇都宮大)が参加し、講演を行った。また、9月28日(水)~30日(金)に開催されたKSBB秋季大会では、本年度受賞者である高木昌宏先生(生物学賞・北陸先端大)、神谷典穂先生(功績賞・九大)、戸谷吉博先生(照井賞・阪大)が講演を行った。6月24日(金)~25日(土)に開催されたBESTの年次大会では、近藤昭彦先生(生物学賞・神戸大)が招待講演を行った。

創立100周年記念第74回日本生物工学会大会では、3日目のKSBB-BEST-SBJ合同シンポジウムでKSBBから5題、BESTから2題の招待講演が行われた。KSBBからの招待講演者は、Assoc. Prof. Hyun Uk Kim (KAIST), Assoc. Prof. Donghyuk Kim (Ulsan National Institute of Science and Technology), Assoc. Prof. Jonghoon Choi (Chung-Ang University), Asst. Prof. Raehyun Kim (Hongik University), Prof. Jungbae Kim (Korea University)で、BESTからの招待講演者は、Prof. Shen-Long Tsai (National Taiwan University of Science and Technology) と Prof. Chun-Jen Huang (National Central University)であった。

■**KSBBとBESTとの交流会議** 第74回大会の3日目、10月19日(水)のシンポジウム終了直後にオンラインで、KSBBのDuk Jae Oh教授(会長, Sejong University), Jeong-Geol Na教授(次期庶務理事, Sogang University)とJeong Hyun Seo教授(次期国際交流担当理事, Yeungnam University)を交えて交流会議を開いた。本会からは、福岡会長、中野(国際展開)理事、梅津(国際展開)理事と筆者が出席した。交流会議では第75回日本生物工学会大会



KSBB-BEST-SBJ合同シンポジウム(第一部)の講演者。上段左より、藤山、Shen-Long Tsai、Donghyuk Kim、下段左より、松田、Hyun Uk Kim、田代(敬称略)。



KSBB-BEST-SBJ合同シンポジウム(第二部)の講演者。上段左より、Jonghoon Choi、中野、Raehyun Kim、下段左より、Chun-Jen Huang、Jungbae Kim、馬越(敬称略)。



KSBBとの交流会議. 上段左より, 福崎, Duk Jae Oh, 藤山, 中段左より, 梅津, 中野, Jeong Hyun Seo, 下段, Jeong-Geol Na (敬称略).



BESTとの交流会議. 上段左より, 中野, Jo-Shu Chang, John Chi-Wei Lan, 下段左より, 藤山, 梅津, 福崎

(2023)にKSBBより5名招待し, 3学会合同シンポジウムを開催することに関して同意を得た. KSBBとの会議に続いて, BESTのJo-Shu Chang教授(会長, Tunghai University / National Cheng Kung University), John Chi-Wei Lan教授(副会長, Yuan Ze University)との話し合いの場を持ち, 3学会合同シンポジウムの開催, 来年も2名の招待講演者をそれぞれの年次大会に派遣することを決めた.

■ **Joint SBJ Meeting with Indonesia, Philippines, and Thailand** 第74回大会終了後, 創立100周年を記念して, 10月21日(金)に, 生物工学国際交流センター5階セミナー室を会場とし, オンラインを中心としたJoint SBJ Meeting with Indonesia, Philippines, and Thailandを実施した. インドネシアのIndonesia Biotechnology Consortium (KBI), Indonesia Society for Microbiology (PERMI), タイのThai Society for Biotechnology (TSB), フィリピンのPhilippine Society for Microbiology (PSM)が参加した. Joint SBJ Meetingの午前の部(10:30~12:30)は, 生物工学会福崎会長をはじめ, 現地参加いただいたインドネシア, タイ, フィリピン, シンポジウムの上記バイオテクノロジー関連学会の著者が開会の辞を述べ, 各学会の活動を紹介した. 午後の部(15:15~18:00)では, 下記6つのトピックスについて, 各国の研究者6名(合計36名)から発表いただいた. 参加者は400名を超えた.



1. Food Biotechnology & Fermentation
2. Agricultural Biotechnology (plant & animal)
3. Biosecurity & Biosafety (including Intellectual Property)
4. Bioenergy & Bioeconomy
5. Molecular & Medical Biotechnology
6. Environmental Biotechnology (including plankton)

Philippine Society for Microbiology (PSM)からは, 自身が持つオンライン・シンポジウムのプラットフォームをご提供いただき, 本ミーティングを円滑に進行することができた. ご協力いただきましたPSMの皆様へ感謝を申し上げます. また, 本ミーティングは, 創立100周年記念事業の一環として実施された.



左から3番目 Howell Ho (PSM会長), 5番目 Penjit Srinophakun (TSB会長), 7番目 Hermansyah (KBI副会長) (敬称略).